

フロウエルマガジンコラム # 3

2008年3月号

『プロ論』

初回のコラムで書いた「我々の目的地」については、前回詳しくお話ししました。今回はやはり初回に書いた「自立的に動く」ということをフロウエルのミッションである「幸せの追求」と絡めて書いてみたいと思います。

自立的に動くということは、自分の頭で考えて行動する事を意味しています。組織の歯車になって、あるいは手足になって働くという事とは対極的なポジションです。それは役職でなければ無理だろうという意見もあるかと思いますが、たしかに一般の従業員がそれぞれバラバラの動きをしていたのでは、組織行動を保てなくなります。ここでいう自分で考えるというのは、単に上から指示が出るまで動かない・前のやり方をし続けるという行動様式をやめて、自分がどう動いたら組織全体のスピードが上がるのか、自分の所属するチームの仕事が進むのかをいつも考えて、工夫するという事です。(いつでもハウレンソウはマストですが) 十分時間をかけても競争に勝ち続けることができるのであれば、上役の指示を待つ方が安全で失敗も少ないと思います。しかし、21世紀の今日はスピード勝負です。組織の各階層が上からの指示待ちでは、大企業相手に到底勝ち目はありません。我々の手強い競合に打ち勝つためには、中小企業の利点をフルに発揮しなければなりません。

皆さんは楽天という会社をご存知ですね。インターネットショッピングモールの楽天市場やマー君とノムさんがいるあの球団を経営する企業です。楽天は1997年2月に創業してまだ11年の若い会社ですが、平成19年12月連結決算で売上高約2,140億円、純利益約369億円の大企業に成長しています。この楽天を創業した三木谷浩史社長(43)のスローガンでもっとも有名なのは、「スピード!スピード!スピード!」でしょう。同社のスローガンで「5つのコンセプト」と題された中の1つですが、この5つのコンセプトは社内いたるところに貼ってあり、社員の行動規範として重要な存在になっています。ある日私のところへ楽天の子会社である「みんなの就職株式会社」注1 から女性の営業担当者が訪ねてきました。急成長企業の楽天について興味があったので、色々聞いた会話の一コマ。「(名刺を見つつ) ミンシュウさんは、楽天本社と同じビルなんですね、今度品川へ引っ越

すそうですけど、一緒に移るんですか？」

「ええ、一緒に移動します。でも六本木ヒルズで働けるから楽天を選んだ社員も多くて、不満もでてますね、一部で」

「楽天では、トイレにまでスピード！スピード！スピード！って張り出されていると聞いてますが、本当ですか？」

「(笑い) 少なくとも女子トイレには貼ってませんよ。今度男性の方を覗いて確認してみますね」

後日、男性トイレにも貼ってなかったとメールで報告してくれました。真面目な方です。

「スピード！スピード！スピード！」というコンセプトは、「シンク！シンク！シンク！」とも置き換えられると個人的に思っています。スピードを上げるためには、一人ひとりが問題はどこにあるのかを考えて、行動に移し、検証して、改善をかけなければならないからです。PDCAサイクルを個別にグルグルまわすということですね。

冒頭の「自立的に動く」というのは、プロフェッショナルリズムの中の行動様式のひとつです。私事で恐縮ですが、高校を卒業した春休みからテニスコーチの仕事を始めて、大学3年生から自分の稼ぎで生活するようになりました（学費と部屋代は親持ちでしたが）。大学卒業の3年後にJPTAとUSPTAのライセンスを取得して今も持っています。結局10年間専業でやったので、プロ論を語る資格がある！と勝手に決めて話を進めます。私が考えるプロフェッショナル像は、その仕事で生計を立てていることを前提に、仕事の質を高めるための努力と考察を常に怠らない姿勢を保ち、色々とトライアンドエラーを繰り返してスキルを高め続けている人というような感じですか。だから真のプロになるためには、ある程度の時間経過はどうしても必要になると考えます。プロとは仕事面で悩みの無い人の事ではありません。むしろ悩み続けて解決していく忍耐を持った人だと思います。私も一日中レッスンの事を考えていました。夢の中でもレッスンをやっていて、ラスト一球！とか大声の寝言で夜中に目が覚めたことも1度や2度ではありません（実際は「うにやらむにやらふー！」みたいな言葉になってないヤツでしたが）。で、自分の仕事に自信が持てるようになったのは大分後のことですが、プロフェッショナルになりたいという願望は常に持っていました。ある時10コ程年上のコーチが後輩の前で私のことを「こいつは、職人だからな」と言ったことがあります。その場の話しの流れから「細かいところまで良く考えて、普通は求めない領域まで追求した仕事をしている」という意味と理解しています。ずっと追い求めてきた事を認めてもらって大変嬉しく感じたのを今でも良く覚えています。しかしです。最近プロフェッショナルリズムとはなんぞと考えることが多く、ハタと気がついたのです。「プロ」と「職人」は似て非なるものではと。プロというのは、その専門職以外の人から見れば到底真似のできない技術を持っている人の事ですが、その点は職人も同じです。ですが、プロは報酬に対して責任を負いますから、調子が悪いときも悪いなりに一定の成果を挙げなければなりません。それが出来ない者は雇用者から切られます。私も切られた人を幾人か見ました。ポテンシャルを見込めない人間は、入ってすぐ自分から去っていきます。プロの域に到達した

者でもずっと、常にプロであり続けなければ仕事が無くなる厳しい世界です。一方職人はというと、気分が乗ったときは素晴らしい仕事をするが、乗らないと仕事そのものをしなかったりする人ではないでしょうか。注2 いわゆる「気分屋」で時間に縛られない仕事環境に身を置いたりします。腕の良いレストアショップにビンテージカーを持ち込んで、2年以上待たされているとかいう話を良く聞きます。今日はスープが上手くできなかったから店を開けないとか言っているラーメン店主は、職人であってもプロではないと私個人的に思います。そこでガーンとなるわけです。オレも超気分屋だ！レッスンでも良い出来の日と悪い日ははっきりしていた。アレってほんとに褒めていたのかな？

職業テニス場から離れて過去の仕事を振り返ると、自分はプロではなかったと今は思います。職人であってもプロフェッショナルではなかった。だから今の仕事では本物のプロを目指したいと強く思います。では、プロはなぜそこまで自分を律し続ける事ができるのでしょうか？答えはこうです。「それが楽しいから」そうする事で幸せになることができます。プロになる人間は例外なく自己実現の達成を至上の喜びとするタイプの人種です。困難を乗り越えて成功した喜びは、癖になるんです。この快感を求めてより難しいことに挑戦したくなります。皆さんは、「フロー理論」というものをご存知でしょうか。流体力学ではありません。人が幸せを感じる状況を心理学的に解明する研究です。それによると行なっている作業に熱中して時間の経つのも忘れるような状態はもっとも効率が良く、仕事の質も高まるのだそうです。そのような没頭する状態を「フロー体験」と呼んでいます。人は自分にとって難しすぎず、簡単すぎない作業をしているときにフロー状態に入りやすいとされますが、ここに自己実現の喜びを組み合わせると、難し過ぎることがこなせるようになった時大きな幸せを感じ、できるようになった作業が自分にとって簡単すぎる状態に移行するまでは、その作業を行う度にフロー体験を得られるわけです。そしてこのフロー体験を日常得ている人が幸福感をより強く持つ傾向が顕著であるとの研究結果が出ています。

プロの人達は、このフロー体験と自己実現によって生まれる幸福感があるからこそ、ごくきついのに頑張り続けることができるのだと思います。仕事をして幸せになれる生活というのは、かなり理想的だと思いませんか？概算で起きている時間の半分を仕事に費やしているわけですから。ぜひ自分の仕事で今まで得られたフロー体験を思い出してみてください。

フロウエルの社名は、「流体が良く流れる」ということと「商品の回転が良い」（商売繁盛、今風に言えばキャッシュフローが良好）という2つの意味が込められています。良く考えられた素晴らしいネーミングだといつも思います。ここにもうひとつ「フロー体験が良く得られる」という意味も付け加えられるような会社にしていきたい、組織人事的な願いを込めてそう思います。

宜しく申し上げます。

注1 みんなの就職株式会社は、楽天株式会社の100%子会社だったが、このコラムがアップされた翌年に吸収合併されて消滅した。

注2 当時の個人的な考えで今は職人の英語がプロフェッショナルで同じ言葉と理解しています。社内報とは言え、職人の方々に対して大変失礼な物言いでした。この場を借りてお詫びします。敢て当時の表記のまま掲載しますことをお許し下さい。